

世田谷区長 挨拶

世田谷区長 保坂 展人

皆さん、こんにちは。世田谷区長の保坂展人です。

せたがや福祉区民学会第12回大会の開催にあたり一言ご挨拶させていただきます。



せたがや福祉区民学会は、平成21年12月に設立をされまして、区内の昭和女子大学、日本大学文理学部、駒澤大学、東京都市大学、日本体育大学、東京医療保健大学、東京農業大学、また、新たに日本女子体育大学が加入され、8大学の参加となりました。

大学、福祉事業所、区民、区の行政関係者が一堂に会しまして、大会を開催するため、全国的にもユニークな学会として発展しており、大会の内容そのもの、福祉の仕事そのものに、スポットが当てられていると実感しております。

これもひとえに、会場を提供していただいた各大学、長谷川幹学会会長をはじめ、学会の理事の皆様、会員の皆様のお力添えの賜物と心より感謝申し上げます。

大学を会場にこれまで11回の大会が開催され、これまでに発表された事例は565事例、参加者は4,559人に上っており、区民学会のホームページに掲載され、全世界へ発信されています。区民福祉の向上を目指して、様々な立場から、日頃の研究や実践活動を発表し、立場を超えて議論が行われています。是非、ご覧ください。

今回は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、残念ながら大学でのリアルな開催を改めまして、インターネットなどを使った新しい開催方式として、

Web 開催となります。コロナ禍にあって、色々なイベントが中止となる中、開催に向け取り組まれた皆さんに厚く感謝をいたします。

新しい様式にも関わらず、従来の大会と遜色なく、48の発表がごございます。意見交換も Web で実施するということでもあります。これまでにない方法ですが、今まで以上に取組み、そして相互の交流、認識がさらに深まって積み上がっていくこと、工夫して継続していくことは大変素晴らしいと思います。

少子高齢社会がだんだんと進展し、労働力人口が減少する中、全国的にも福祉人材不足が大きな問題となっています。ご多分に漏れず、世田谷区でも同じことが起きています。福祉の仕事は、知識や技術、高い専門性が求められ、人間の尊厳を支える極めて重要な仕事です。区民学会の発表を通し、福祉の仕事の素晴らしさを発信していければと思います。

世田谷区でも28ある、まちづくりセンターに福祉の相談窓口を設けて、区民のみなさんの福祉に関わる相談をワンストップでお受けするようになり、全区的に整ってから4年になります、三者連携とあって、社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、そしてまちづくりセンターが一体となって、地域に根付いていけば、地域の福祉力を底上げしていく、そんな取組みも次々と報告されています。

とりわけ本年は10月1日施行で、「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」が制定されました。この条例は「希望条例」という言葉もさることながら、認知症の当事者にも参加いただき、家族、そして、介護、医療の現場、専門家、ジャーナリストの皆さんも参加して、議論を尽くしてできあがったものです。認知症の方々の一人ひとりの人生の歩みや尊厳を大切にして地域で生きていく、お互いを支えあう世田谷区にしようではないかとの決意を込めて策定されました。

コロナ禍にあって福祉を一日も止めることはありません。できません。ご苦労が続いていると思います。そんな多忙な中、事例発表に取り組まれた皆さん、

参加される皆さん、事例報告集に広告を寄せていただいた心ある皆さん、そして、大会を運営される皆さんに私から心から感謝申し上げたいと思います。

第12回大会、Webでの開催となりました。皆様からご意見をいただき、参加される皆様のお力添えで、大きく盛り上げていただきたいと考えています。

第12回大会開催を記念し、区を代表してご挨拶を差し上げました。

本日はお集まりいただき、ありがとうございました。